

#### 大都市制度について

(加納副委員長) さまざまなお話を聞きまして、非常に勉強になりました。本市もさまざまな状況の中で、ビッグ3と言われているところともある意味では連携もしながら、国が余りにも動いてないということも含めて、何とかこの制度改革を進めようとしております。横浜市として大都市制度創設の基本的な考え方を発表して、去年から進めてきたものをこの1年議論してきて、来年に向けて横浜市の大都市制度創設の基本的な考え方をまとめようとしているのです。そういう中で9月28日に第1次素案が出て、委員会としても今後どう進めていくかが一つのテーマです。先生の御講演の中で幾つか出てきているものがありますので、税財源の問題、広域行政の取り扱い、都市内分権、18ページの東京の問題も大変参考になっております。もし目を通していらっしゃれば何か御意見をいただければ、もし目を通してなければ、横浜市がこういう動きをしていることについて、御提言なり御意見なりいただければありがたいと思います。

(大杉教授) 素案ということで、私がいただいたのが委員が言われたのと同じ段階のものかちょっとよくわかりませんが、目にさせていただいたところ、基本的な方向性としては、今までの横浜市あるいは横浜市を含む3都市で出されてきたものを踏まえて、まとめられたものとして、こうしたまとめ方はあり得ると思います。もう一つ、全体の自治の仕組みというものを、どれぐらいの時間的な射程で見ていくかにもよりますが、現行制度の枠組み、それから現行制度を少し超えた枠組み、さらにもっと大きく全体を変えていくという発想で考えたときに、現段階でなかなか動きが見られない中で、特に一番大きな射程の部分ももう少し打ち出していくとすれば、大都市制度そのものとそれ以外のものがどういう形で成り立っていくのか、基本的な考え方の中でそれ以外のところを詳しく書くわけにはいかないのかもしれませんが、そうしたことも含めたありようをきちんと見据えていくことが、大都市としての役割は、自分たちの中身だけを見ていくのではない、全体を見ていくということからしても、制度設計に当たってもそういう視点がないというわけではないのですが、明確にされていかれると、よりよい形のものにまとまるかと考えております。